様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：３３９１９
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１３２０９

研究課題名（和文）感情史的アプローチによる中国北朝墓誌の分析と文化的社会集団の復元

研究課題名（英文）Analysis of Chinese Northern Dynasties tomb epitaphs and reconstruction of cultural and social groups through an emotional history approach

研究代表者
石原　聖子（大知聖子）（Ochi, Seiko）

名城大学・理工学部・准教授

研究者番号：８０６５０６４７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は中国・北朝期（4～6世紀）の新しい出土資料である墓誌を使用し、墓誌の中で用いられる用語を分析し、心情を表現した用語に基づく社会集団の存在を復元することを目的とする。分析方法としてデジタルヒストリーの研究成果を活かし、墓誌のデータベース構築とテキストマイニング分析を行った。新たに収集した北魏墓誌については目録を発表した。本研究では特に墓誌の銘辞という韻文形式の文学的修辞部分における用語法に着目した。その結果、特徴語を使用する集団を復元し、さらには男女のジェンダーロール表現についても明らかにすることが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年、墓誌を利用した研究が進んでいるが、主に官歴や出身の部分に重点が置かれ、文献資料の内容補足や部分的修正にとどまっているという問題点がある。本研究はその限界を乗り越え、政治的集団とは異なった、文化を共有する社会集団を明らかにしようとするものである。
またジェンダーロール表現に着目することで、「なぜ東アジアにおいて女性が男性よりも不利になるジェンダー秩序が維持されてきたのか」という問いの下、歴史上社会規範に大きな変化が生じた北魏においてもなお男性の優位が維持され続けるシステムを解明に繋がる。

研究成果の概要（英文）：This study uses newly excavated grave epitaphs from the Northern Dynasties period (4th to 6th centuries) in China, and aims to analyze the terminology used in the epitaphs to reconstruct the existence of social groups based on the terminology expressing emotions. As an analytical method, we utilized the results of digital history research, constructed a database of the epitaphs, and performed text mining analysis. We have published an inventory of the newly collected Northern Wei epitaphs. In this study, we focused particularly on the terminology used in the epitaph inscriptions, which are literary rhetorical parts in verse form. As a result, we were able to reconstruct the groups that use characteristic words, and also shed light on the gender role expressions of men and women.

研究分野：中国史

キーワード：テキストマイニング　北魏　墓誌

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

中国・北朝期（4～6 世紀）の新しい出土資料である墓誌は、近年、陸続と発見され、資料の少ない当該時期において貴重な存在となっている。そのため墓誌を用いた研究が増加しているが、北朝史研究においては官位や出身や姻戚関係にばかり注目され、墓誌の修辞・韻文部分である銘辞については全くと言ってよいほど注意が払われてこなかった。しかし、報告者が北魏墓誌の約 650 点のデータを入力してテキスト化し、銘辞部分の用語について分析すると、流行を生み出す文化的社会集団が存在していたことが明らかになった。具体的には、皇室や貴族など高い身分の者⇒都から離れた低い身分の者⇒高い身分の者の再利用、と用語の流行が推移する傾向が見られた。これは身分の高い者による差異化によって用いられた語が、都から離れた身分の低い集団に模倣された結果、使われなくなり、一定期間が過ぎるとまた都で流行するというサイクルであった。この段階では北朝における文化的社会集団の存在を示すこと自体には成功したが、用語そのものが持つ意味についてアプローチすることは不十分であった。そこで本研究では、墓誌において頻出する用語が示す意味について迫ることで、具体的な関係性を示そうと考えた。

２．研究の目的

本研究は中国・北朝期（4～6 世紀）の新しい出土資料である墓誌を使用し、墓誌の中で用いられる用語を分析し、感情史的アプローチを行うことで、心情に基づく社会集団の存在を復元することを目的とする。従来の国家研究や政治史的アプローチに偏った北朝史研究とは異なり、集団ごとの偏差によって心情を共有する社会集団の存在を復元するとともに、社会集団間の文化的影響関係を解明する。特に墓誌の銘辞という韻文形式の文学的修辞部分における用語法に着目する。近年、墓誌を利用した研究が進んでいるが、主に官歴や出身の部分に重点が置かれ、文献資料の内容補足や部分的修正にとどまっているという問題点がある。本研究はその限界を乗り越え、政治的集団とは異なった、心情を共有する社会集団を明らかにしようとするものである。

３．研究の方法

まず、北魏墓誌を収集した上でテキスト化し、データベース構築と数量化を行った。先行研究において確認されている北魏墓誌は 2013 年の時点で約 550 点ある。その後も次々と墓誌の発掘が報告されているため、利用できる墓誌は増加している。報告者が把握している新出の北魏墓誌は約 100 点あり、目録として発表し、追加することができた。

次に、用語の出現頻度の傾向によるグループ分けを行った。北魏墓誌の銘辞部分について電子テキスト化し、計量テキスト分析ソフト KH Coder および自作の辞書を適用した MeCab を用いて銘辞部分のテキスト統計を行った。また ChineseTextProject の分析ツールも併用した。

４．研究成果

まず論文発表として成果を出したものを示す。北魏墓誌のデータを集めデータベースを作る際に、報告者が収集した新出の北魏墓誌約 100 点の目録を成果物として発表した。また、上記のテキストマイニングの手法について詳細を示した論文も二本発表することができた。さらに、上記の手法で KH Coder を用いて単語出現頻度を計算した結果、二文字熟語として 19339 語抽出し、うち二回以上使われた熟語は 3386 語（約 17%）であり、残る約 83%は一回のみの使用であったことを明らかにした。これは一つ一つの墓誌を読む中では気づくことができないものであり、テキストマイニングのような探索的データ分析（Exploratory Data Analysis: EDA）によって初めて気が付くことが出来たものである。一方、共起ネットワーク図を作成すると、明らかなクラスターが見つかった。これは先述した出現頻度分布から考えれば、多くの語同士に強い関係が出るのは極めて不自然な事である。この部分について、KH Coder の KWIC コンコーダンスの機能を使って文脈を確認すると、銘辞のほぼ全文が似通っており、甚だしいものでは異なる墓主であるにも関わらず完全に同文のものが見つかった。そこで文献史料も併せてこれらの墓誌の背景を探ると、銘辞の作者である文筆家が表現を使い回した可能性が高いことを発見し、論文として発表した。また、感情に関する用語を整理する中で、性別によって銘辞が大きく異なると気付き、そこから当時理想とされていた男女の役割の違いを論じることができるのではないかと考えた。そこで、類似性ネットワーク図を作成したところ、性別は類似性の影響のあるファクターであることが読み取れた。そのため、KH Coder の対応分析を用いて男女の特徴語を抽出し、北魏墓誌にて表現されるジェンダーロールについて考察を進め、論文二本を発表することができた。

以上のように本研究課題を通じて探索的データ分析（Exploratory Data Analysis: EDA）を歴史学研究へ応用することの重要性と有効性を確認することができた。この点について研究期間内に論文化したものが 2024 年度中に発行予定である。

また本研究課題の成果を含んだ単著が 2024 年 2 月に出版予定である。これは名城大学学術研究奨励助成制度出版・刊行助成事業費に採択されたものである。

次に学会発表に関する成果を示す。期間中は新型コロナが流行し外出そのものができない場合が多かった。しかしオンライン参加を活用し、第五類への移行後は現地での国内外での学会発

表や参加を積極的に行った。そして、多くの研究者と交流し、自分の研究に対して意見を貰うことができた。また、本研究の成果として、デジタル・ヒューマニティーズ分野では最高峰・最大規模の国際学会である DH2024 の発表（ショートペーパー）にアクセプトされた。学会自体は 2024 年 8 月に実施されるが、本研究課題の成果によるところが大きい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 大知聖子	４．巻 27
２．論文標題 テキストマイニングによる北魏墓誌の銘辞の分析 ―KH Coderを用いた古典中国語（漢文）の数量的研究―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 名城大学総合研究所紀要	６．最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大知聖子	４．巻 27
２．論文標題 新出北魏墓誌目録	５．発行年 2023年
３．雑誌名 名古屋大学東洋史研究報告	６．最初と最後の頁 93-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大知聖子	４．巻 45
２．論文標題 北魏墓誌の銘辞とその撰文―同一銘辞の問題を中心に―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 名古屋大学東洋史研究報告	６．最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大知聖子	４．巻 28
２．論文標題 中国哲学書電子化計画の分析ツールを用いた北魏墓誌研究：類似性のネットワーク図とワードクラウドを中心に	５．発行年 2023年
３．雑誌名 名城大学総合研究所紀要	６．最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大知聖子	4．巻 59-3
2．論文標題 北魏男性墓誌の特徴語の抽出および語義考証	5．発行年 2024年
3．雑誌名 名城大学人文紀要	6．最初と最後の頁 33-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大知聖子	4．巻 51
2．論文標題 北魏女性墓誌の特徴語の抽出および語義考証	5．発行年 2024年
3．雑誌名 九州大学東洋史論集	6．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　2件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 大知聖子
2．発表標題 北魏女性墓誌の銘辞にみられるジェンダー規範－テキストマイニングを用いた数量的研究－
3．学会等名 九州史学会 2022年度 大会 東洋史部会
4．発表年 2022年

1．発表者名 大知聖子
2．発表標題 北魏墓誌の銘辞を用いたテキストマイニングによる文化的社会集団の復元
3．学会等名 デジタル・ヒューマニティーズが拓く日本研究の新展開
4．発表年 2022年

１．発表者名 大知聖子
２．発表標題 テキストマイニングの概要と意義－KH Coderを用いた中国語（漢文）分析の活用例を中心に－
３．学会等名 KU-ORCUS言語交渉研究班及び国際共同研究加速基金共同開催（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 大知聖子
２．発表標題 北魏墓誌の用語の選好性にみる文化的社会集団の復元
３．学会等名 史学会大会東洋史部会
４．発表年 2020年

１．発表者名 大知聖子
２．発表標題 テキストマイニングを用いた北魏墓誌におけるジェンダーステレオタイプの研究
３．学会等名 第132回人文科学とコンピュータ研究発表会
４．発表年 2023年

１．発表者名 大知聖子
２．発表標題 北魏男性墓誌の銘辞にみられるジェンダー規範の研究
３．学会等名 日本ジェンダー学会
４．発表年 2023年

１．発表者名 大知聖子
２．発表標題 KH CoderおよびChineseTextProjectの分析ツールを用いた漢文テキストマイニング－北魏墓誌銘辞を実例として
３．学会等名 第133回人文科学とコンピュータ研究発表会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 大知聖子
２．発表標題 Analyses of Similarity and Social Networks of Chinese Poetry Parts of Northern Wei Epitaphs Using Text Mining
３．学会等名 PNC2023（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 大知聖子
２．発表標題 用TextMining試析北魏墓誌銘文的流行與文化群落的恢復
３．学会等名 第十四屆數位典藏與數位人文國際研討會（台湾）（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関